広島工業大学紀要教育編
第8巻（2009）pp.57-64
報　　告

学外地域におけるフィールドワーク型授業実施の為の教育方法の開発

—広島工業大学地域環境宮島学習センターを基地とする授業実施とその展開—

森保　洋之*・脇田　祥尚**・菊川　照正***・平川　隆啓****

（平成20年10月31日受理）

On the Development of the Education Method for Training Class Enforcement of the Fieldwork Type in the Area outside the University

— The class enforcement and the development at the Miyajima learning center of the Hiroshima Institute of Technology —

Hiroshi MORIYASU, Yoshihisa WAKITA, Terumasa KIKUGAWA, and Takaaki HIRAKAWA

（Received Oct. 31, 2008）

Abstract

This report clarifies the development of the education method for training class enforcement of the fieldwork type in the area outside the university. In concreteness, this report performs the class enforcement and the development at the Miyajima learning center of the Hiroshima Institute of Technology.

The main contents are as follows: (1) the adjustment of the contents of the allied class subject. (2) the example introduction as the illustration. (3) the device of time, contents, quantity, level to offer the condition. (4) the training of the planning and the announcement method beforehand. The trial of the above-mentioned education method was effective.

Keywords: development of education method, training class enforcement, fieldwork type, Miyajima learning center

1. 目的

本報告は，広島工大・環境学部・地域環境学科における「地域環境の現地・現場」を教材とする実習教育に有用な「学外地域でのフィールドワーク型」授業実施の為の教育方法の開発を目的としている。

具体的には，2006年（平成18年）10月に大学が開設した，宮島の歴史ある町家「佐々邸」を教育学習拠点とする「広島工業大学地域環境宮島学習センター」（通称：“宮島こもん”：**資料1**参照）を，教育学習の基地とし，“宮島こもん”を含む「宮島門前町」の現地全域を対象に，学部学生が実地で学ぶフィールドワーク型の授業実施の為の新し

*　広島工業大学環境学部地域環境学科
**　近畿大学理工学部建築学科
***　厳島生活文化研究所・代表
****　広島工業大学大学院環境学研究科地域環境科学専攻（現：NPO法人いえとことばとこころの部屋）

い教育方法の開発を目指すものである。

そもそも，広島工大の教育改革「HIT 教育」の 10 の特色の中に，「体験型学習」，「動機づけ教育」，「グループ学習」，「コミュニケーション学習」，「課題探求型学習」など様々な教育・学習方法の導入がうたわれている。本報告は，これらを追求する教育方法の開発であり，2007 年度の実施報告である。

2. 計画

“宮島こもん”を基地としたフィールドワーク型授業の実施を次により行うこととした。実際には，昨年度は，【1】～【3】を実施し，【4】【5】は，実施していない。

【1】まちづくりフィールドワーク（以下，FW と略す。）（調査）：FW 型の教育方法を開発し実践する。

【2】まちづくりワークショップ（以下，WS と略す。）（提案・展開）：学生相互，学生と教員・地域住民，等々の WS を実施し，問題点・課題の確認とその解決策について議論する。

【3】基地の機能：課題の説明や，FW や WS 等の説明の場所。学生が FW 実施時には，教員の一人は基地に常駐し，各種連絡・指導に当たる。WS を行う中心的な場。成果を，地域人ほかを交えた場で発表し，相互に意見交換を行う。成果をストックする場所としても本基地は機能する。

【4】地域情報の発信・交流：FW や WS 等による成果を印刷化し，地域情報として地域に発信し，教育成果の地域還元を図る。

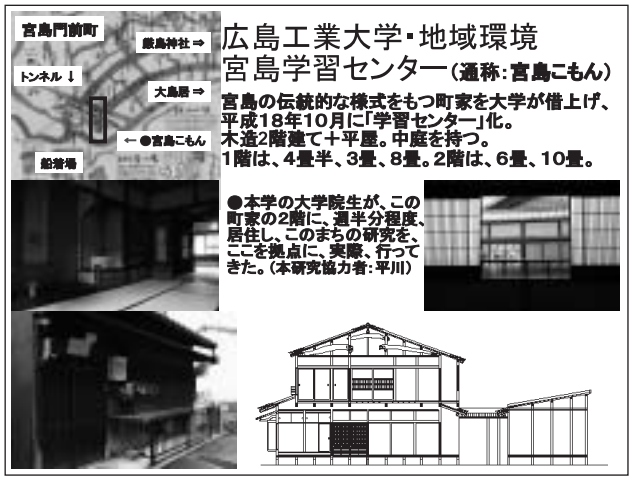
【5】基地と大学キャンパスとの関係：大学キャンパスでも，それらのデータ，成果の全てを蓄積する。

3. 期待される効果

期待される効果としては，次の通りである。①学生は，教室を飛び出し，実体験するフィールドワーク型教育を通じ，生きた学習を意欲的に行い，それを通して，社会人としてのコミュニケーション能力，地域環境を読み解き，活かす知識・技術が身に付き，洞察力，解決力等，これからの技術者として，地域の課題に取り組む為の総合力を養う。②複数の研究者・研究協力者（含，地域住民，院生）が授業を展開することで，学生は，調査 ⇔ 成果 ⇔発信・交流 ⇔ 実践・展開（含，再調査）という，まちづくりの段階，その重層性を，多少体験することができる。

ここでの用語の設定や定義は次の通りである。「フィールドワーク型授業」：「理論から，応用・実践を学ぶのではなく」，「興味ある実践の現場で体験し，それを通して理論を学び，応用を考えること」を重視したもの。一般に行われる授業の順序とは逆の方法。以下のＦＷ，WS の全体である。

資料１　広島工業大学宮島学習センターの概要



「まちづくりフィールドワーク（FW）」：対象地域を特定し，その地域の「現地」調査を通して，地域の特性・問題を，「現地」で把握・考察・確認すること。

「まちづくりワークショップ（WS）」：多様な立場の参加者による共同作業により，地域の諸問題解決の為の提案をすること。「現地」実施の必要はない。

4. 方法

【１】幾つかの教育方法の試行

これについては，次に示す通りである。

当教育開発センターでは，学外地域におけるフィールドワーク型授業実施の為の教育方法の開発を目指し，広島工業大学地域環境宮島学習センター“宮島こもん”を基地に，「4 年次・前期・選択：環境管理と演習」，「3 年次・後期・必修：まちづくり政策」，「2 年次・後期・選択：計画実習Ⅱ」の，３つの授業にて教育方法を試行した。フィールドワーク型授業とは，体験・実感性重視のフィールドワークと，対話・相互作用性重視のワークショップを用いた授業のこととした。「理論から応用・展開へ」ではなく，「応用事例としての現地・現場から理論・展開へ」という，従前の方法とは異なる方法を試行した。

具体的には，

●関連授業科目の内容の調整を図る。
●具体の例示としての事例紹介に意を払う。
●与条件を提供する時期・内容・量・レベルを工夫する。
●企画・発表方法の訓練を事前に行う。

等々の，幾つかの教育方法を試行した。

【２】具体の「フィールドワーク型」授業実施の為の教育方法の設定

これについては，次に示す通りである。つまり，フィー

ルドワーク･ワークショップの共通事項の設定内容は，以下の通りである。

性格：教育（方法）としてのフィールドワークとワークショップ。

両者の関係：フィールドワークとワークショップはそれぞれ個別とし，両者の繋がりを重視する。

目標・視点の提示：宮島門前町のいえ・通り・まち，その課題の存在と解決行動(含,因果関係)。

他の授業との関係：講義と演習・実習教育との連携・内容の調整を図る。

事前訓練：フィールドワーク等の事前に，≪企画≫≪プレゼン≫の練習・訓練の基礎トレーニングを重視する。

基礎資料提示：地図，関連文献，資料，インターネット，ほか。

専門資料提示：フィールドワーク等の事前に，確認事項・検討要素等のチェックリスト的資料の提示。

フィールドワーク等の持参物：地図，デジタルカメラ，スケール，フィールド・サーベイ・ノート，携帯電話，ほか。

フィールドワーク等の実施対象：（この度は）個人。（今後は，共同性も取り入れ実施を検討。）

【3】具体の「フィールドワーク型」授業実施の為の教育方法の設定（続）

これについては，次に示す通りである。

■**【フィールドワーク関係】**…現地に身を置き，体験（体感・実感）し，まち歩き・まち点検を行う。…

方法：「歩く」，「見る」（行動・行為の観察），「感じる」，「考える」，「聞く」（インタビュー・対話），「測る」（実測・計測），「写真におさめる」，「ノートに記録する」，他。…「実感性重視」…

手順：具体には，テーマ・視点，課題・問題の抽出・整理・整備方向の検討，計画立案・まとめ，の順。

成果の示し方：個々人で，パワーポイント，報告書・レポート，等々を作成。

■**【ワークショップ関係】**

目途・視点：体験・参加型のスタディ､問題解決・トレーニング，合意形成，ほか。
…「対話性重視」…

効用：体験・参加・対話・相互作用の４点。

方法：フィールドワークの結果を「パワーポイント等」にまとめる。それを発表し，講評・意見交換ほかを行う。

手順：学生個人のパワーポイントによる発表。それに対する講評・意見交換…教員・地域住民・大学院生の同席・参加・コメント発進。

教員の立場・機能：ファシリテーターとして，専門用語の翻訳，コメントの意味付け・発進，等を行う。

■**【感想・アンケート(授業評価)】**…含，反省…

【4】対象地域の調査・検討内容の学生への提示資料・内容（後掲の３つの授業科目，共通の与条件・刺激）

これについては，次に示す通りである。

■**まちづくり関係の調査・検討事項：もの（主）・こと（副）・しくみ（副）づくり関連**

1）いえ・みち：いえ（間口・奥行き，上屋・下屋，間取り，他），
みち（幅，仕上げ，路肩の構成，他）

2）みせ・しせつ：みせ（業種，間口・奥行き，上屋・下屋，間取り，他）
しせつ（機能，間口・奥行き，間取り，他），町家（いえ・みせ一体型）

3）いえ並み（平入り・妻入り，上屋・下屋高さ，素材の共通性，他）

まち並み（いえ・みせの前面空間の使われ方，構成要素とその共通性，軒高，起伏調整装置・障害物としての階段・段差・スロープ・勾配，他）

みちの構成（通路・路地構成，他）

みずの構成（水路・井戸の位置，上水・雨水・下水，池，他）

空間の構成（広場と路地の構成，共有空間の内容とその構成，緑の構成・ネットワーク，他）

4）まち：神社・寺社と，いえ・みせ・ほかの構成，風景の展開（五重の塔の可視範囲，他），バリアフリー・ユニバーサルデザイン関連

5）ひと・生活組織。6）人口・産業。7）歴史・文化。8）自然。9）ほか。

■更に，路地，ヒューマンスケール，町家，風景，地形，眺望，ランドマーク，生活空間，歴史的町並み，地域文化財などをキーワードとして提示。

■４年次の「環境管理と演習」の場合，以上の他に，自然，物的構成，社会的構成（生活組織・祭事・ほか）との相互関連性に係る資料を提供。

【5】関連授業科目

ここで扱う関連授業科目については，**資料２**に示すとおり，４年次科目１科目，３年次科目３科目，２年次科目

３科目，全７科目である。これらの科目毎に，宮島関連の授業内容の内で,予備知識・与条件・刺激について示すと，次の通りである。

資料２　平成 19 年度　関連授業科目

学年・期	学科	授業科目	単位・コマ	担当教員	宮島関連の授業内容（予備知識・与条件・刺激）
４年前期	環境デザイン マネジメント・コース	環境管理と演習（受講者：約10名）	選択 １コマ	上嶋7 森保7（週）	（森保担当分）「環境管理」を考える対象として、家・町並みを考える。宮島門前町の町並みを考える（4コマ分森保：地図・歴史・資料研究、その後、FW+WS：2コマ分をまとめ、宮島で演習（6/29 実施）、森保・菊川・平川担当）
３年前期	環境デザイン	建築集合論	選択 １コマ	森保	町家、家・町並みの集合構成の原理の基本要件（与・基礎要件）
３年後期	環境デザイン マネジメント・コース	まちづくり政策（受講者：約40名）	必修 １コマ	森保8 脇田7	まちづくりの制度・政策の基本要件。「まちづくり政策」を考える対象として、宮島門前町の現地で、町並みを考え、そして魅力とその対策を探る（含、FW+WS）。FWは各自。WSは、2コマ分の宮島での授業（12/5 実施）の中に含めて実施：脇田・平川担当。
３年後期	環境デザイン	都市環境評価	選択 １コマ	菅原7 森保7	（森保担当分）いえ・通り・地区・まちの環境評価要件（与・基礎要件）
２年後期	地域	まちづくり計画	必修 １コマ	森保9 脇田6	まちづくりの計画要素とその組立（総論、各論、事例考察）（与・基礎要件）
２年後期	地域	建築集合論	選択 １コマ	森保	町家、家・町並みの集合構成の原理の基本要件（与・基礎要件）
２年後期	地域	計画実習Ⅱ（受講者：約10名）	選択 ２コマ	森保	複数戸の戸建住宅設計。ほかの実習。その後、宮島門前町の町並みを考え、その魅力を探るFW+WS。FW+WS等では、1回 2コマ分を2回、宮島で実習（12/12, 1/23.の2回実施）森保・菊川・平川担当。

■４年前期：環境管理と演習…（森保担当分）「環境管理」を考える対象として，家・町並みを考える。宮島門前町の町並みを考える（４コマ分森保：地図・歴史・資料研究，その後，FW+WS ：２コマ分をまとめ，宮島で演習（平成 19 年６月 29 日実施），森保・菊川・平川担当）

■３年前期：建築集合論…町家，家・町並みの集合構成の原理の基本要件（与・基礎要件）

■３年後期：まちづくり政策…まちづくりの制度・政策の基本要件。「まちづくり政策」を考える対象として， 宮島門前町の現地で，町並みを考え，そして魅力とその対策を探る（含，FW+WS)。FW は各自。WS は， ２コマ分の宮島での授業（平成 19 年 12 月５日実施）の中に含めて実施：脇田・平川担当。(企画：森保)。

■３年後期：都市環境評価…（森保担当分）いえ・通り・地区・まちの環境評価要件（与・基礎要件）

■２年後期：まちづくり計画…まちづくりの計画要素とその組立（総論，各論，事例考察）（与・基礎要件）

■２年後期：建築集合論…町家，家・町並みの集合構成の原理の基本要件（与・基礎要件）

■２年後期：計画実習Ⅱ…複数戸の戸建住宅設計，ほかの実習。その後，宮島門前町の町並みを考え，その魅力を探る FW+WS。FW+WS 等では， １回２コマ分を２回，宮島で実習（平成 19 年 12 月 12 日，平成 20 年１月 23 日の２回実施)，森保・菊川・平川担当。

【６】FW 型授業内容とその状況・成果

FW 型授業内容とその状況・成果については，**図１**，**図２**，**図３**に示す通りである。

■**図１**…４年次の FW 型授業内容と，その状況・成果について示している。…ここでは，「**環境管理と演習（選択：シリーズ)**」の１科目のみであり，「環境管理」の側からのまちづくりの要件に注目し，「環境管理」を考える素材としての，宮島門前町の町並み・通り FW+WS を実施した。２教員担当授業で，森保担当分のみ宮島門前町を対象とし，FW+WS 型の演習を実施した。４コマ分は地図・歴史・資料研究を行ったが,予定以上に時間を要した。２コマ分をまとめ，一回，宮島で演習を行った。宮島での演習日は，平成 19 年６月 29 日であった。結果として，同年次にて，他の関連の授業が無く，それとの関係から，本授業を，立体的に組むことは出来なかった。その事も，学生の成果内容・質に影響を与えた面がある。また，事前に資料を多く与えた。このことの消化不良の点も否めない。与資料の適切さの課題が残った。

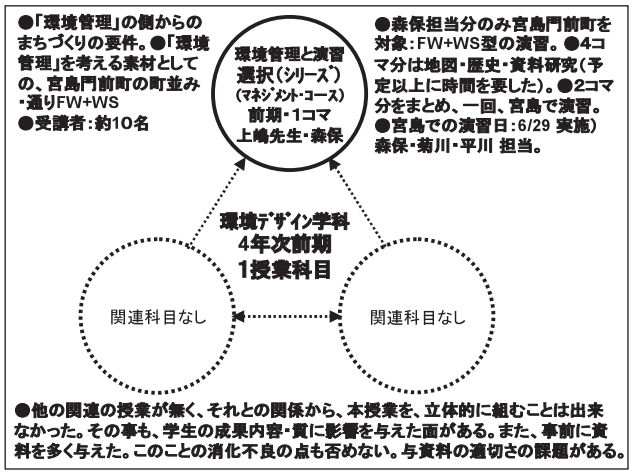


図１　FW 型授業内容と，その状況・成果①

■**図２**…３年次の FW 型授業内容と，その状況・成果について示している。…

「**まちづくり政策（必修：シリーズ)**」については，まちづくりの制度・政策の要件に注目し，まちづくり政策を考える素材としての，宮島門前町の町並み・通りの FW+WS を実施した。宮島での授業日は，平成 19 年 12 月５日であった。本講義は， ２教員が担当の科目。その中で， ２コマ分を宮島の現地にて講義を行った。講義前に，学生は各自 FW を行い，講義は WS 型を取り入れた。講義後，学生が，再度，FW を行うことを仕掛けた。本 FW+WS 型の講義の結果，学生の宮島 FW+WS のレポートの質は，良いものであった。講義と絡めた FW+WS は，限界はあるものの，今後の課題であることが見出された。

「**都市環境評価（選択：シリーズ)**」については，森保担当分は，いえ・通り・地区・まちの環境評価要件（与・基礎要件）について授業を行なった。

「**建築集合論（選択)**」については，町家，家・町並みの

集合構成の原理の基本要件（与・基礎要件）について授業を行なった。

「**3 科目の全体**」については，２つの選択の講義が，本必修の講義を支援することを意図して，授業を組んだ。これらの内容の総体により，宮島での FW+WS を取り入れた授業への結実を意図した。学生レポート内容からは，ある程度，３科目を立体的に組むことが出来た様に考えている。

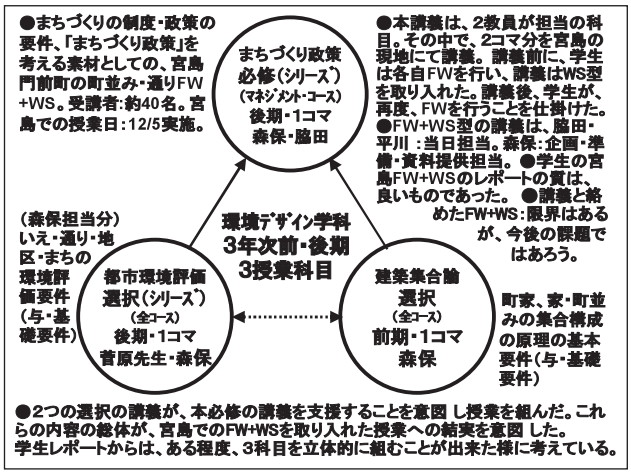


図２　FW 型授業内容と，その状況・成果②

■図 3 … 2 年次の FW 型授業内容と，その状況・成果について示している。…

「**計画実習Ⅱ（選択）**」については，複数戸の戸建住宅設計ほかの実習を行い，その後，宮島門前町の町並みを考え，その魅力を探る FW+WS を実施した。FW+WS 等では，１回 2 コマ分を 2 回宮島で実習した，平成 19 年 12 月 12 日，平成 20 年 1 月 23 日の 2 回の実施であった。受講生は少なく，学生への刺激発進上，教育上，極めて有効であることは歴然であった。学生の宮島 FW+WS のプレゼン（P.P.）の内容・質は，良いものであった。教員・ほかからコメントを得，緊張感ある良い効果が得られたものと考えている。

「**まちづくり計画（必修：シリーズ）**」については，まちづくりの計画要素と，その組立，特に総論，各論，事例考察，与・基礎要件，等々について，授業を行なった。

「**建築集合論（選択）**」については，町家，家・町並みの集合構成の原理の基本要件（与・基礎要件）について，授業を行なった。

「**3 科目の全体**」については，２つの講義と，１つの実習とを，同じ教員（森保）が担当し，３科目をより立体的に組むことが出来たこと，本実習の前半に，企画・発表力増進の訓練を相当できたこと，等々が，学生の宮島 FW+WS のプレゼン（P.P.）の内容・質に影響を与えたと考えている。

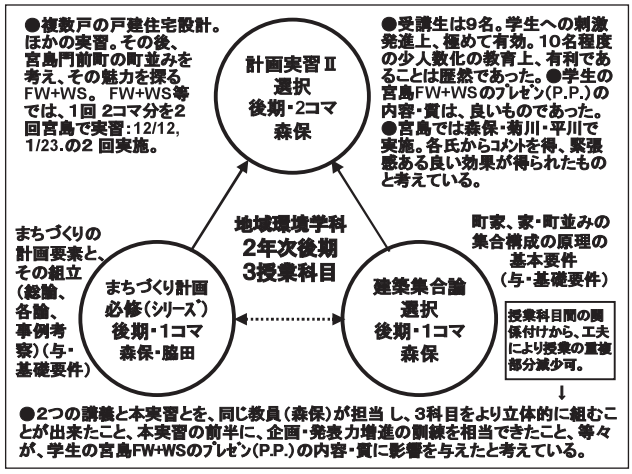


図３　FW 型授業内容と，その状況・成果③

【７】「計画実習Ⅱ」（２年次・後期・選択授業）での宮島 FW ・ WS のプレゼンテーション内容例

これについて，学生個々の内容を示すと，次の通りである。

■世界の“Miyajima”，地域の“宮島”：

【視点】２つの宮島の比較。宮島コモンを拠点に宮島の町家通り，小路，祠，景観等を中心に FW する。【解釈】宮島の本質は表の厳島神社の方にあるのではなく，裏の町家通りや住民の生活の場にあるのではないかと思った。景観の表と裏。

■宮島～緑を探す～：

【視点】町家を活かし，そして何か新しいものを！ 住む人々が協力して緑を増やしたら？　その方法？ 【解釈】町家通りをもっと良くするために，緑（植物）に目を付け工夫例を探した。その結果， 多くの発見があり，多くの疑問点・改善点が得られた。

■宮島のバリアフリーについて：

【視点】視点を変えて宮島を歩く。いつもは歩かない住宅街を歩く。【提案】観光客⇒内側からの地域的課題。裏の宮島＝日常の宮島。これを忘れないように！　現在と今後の課題，安全・安心づくり，高齢化対応，等々の課題。

その他の提案：■宮島にある休憩できる場所，■宮島の２つの顔，■宮島歩き，■宮島口の現状と課題。

■学生のプレゼンの全体概要：

★２年生のプレゼンのテーマ・視点・提案の内容は多様であった。★学生は，観察，地図記入，写真，インタビュー，等々の手法を何れも用いていた。★２年生にとって，パワーポイントによるプレゼンは初体験であったが，その内容から見て，有効な道具立てといえる。★教員の他に，地域住民，大学院生も同席する中でのプレゼンは，授業の一定

図４　計画実習Ⅱ「宮島門前町の町並みの魅力を探る FW ＋ WS ：学生プレゼン例（一枚割愛）」

の雰囲気・質を形成する要素の一つの様に思われた。そして，「ものづくり」の視点だけではなく，「ことづくり」，「仕組みづくり」の視点・知識の大事さ，及び，自然，社会という図式の大事さ，等々を，多少とも理解させたものと考えられよう。**図４**に，学生のプレゼンの１例を示す。

【８】「計画実習Ⅱ」（２年次・後期・選択授業）での宮島 FW ・ WS に関する８つの質問（本授業評価関連）

このことについて，２年次（現：３年次生）の女子学生の回答例を，以下に，ほぼ原文のまま掲載する。

①大学として宮島に学習センターを持っていることについての感想？　⇒　宮島のような魅力のある場所に，あのような学習の場があるというのは，有意義である。

②宮島の町を対象・素材に，フィールドワーク，発表会を行ったことについての感想？　⇒　普段，観光客だったら立ち入らないような小路を歩き，住民の方に話を聞き，宮島の新たな魅力や，「宮島」の様々な課題がみえた気がします。

③併せて，その場に，地元の菊川さんにも入って頂き，講評会を，ワークショップ風に実施したことについての感想？　⇒　とても良かったと思います。実際に宮島に住んでおられる菊川さんの存在は，程好い緊張感を与え，普段の発表とは違った空間でした。

④また，大学院修士課程の平川さんにも入って頂き，講評会を，ワークショップ風に実施したことについての感想？　⇒　③と同様，とても良かったと思います。菊川さんの専門的な意見と違って，学生の延長線上である大学院生という立場から分かりやすい意見や質問だったと思います。

⑤パワーポイントを用いた発表の感想は？　これについては，設計の図面とも異なるものの，一定の成果物としての雰囲気を持つものとしてイメージされるか？　また，今後の提出発表の手段としての効果は？　⇒　今回の課題を発表するにあたって，パワーポイントは適していたと思います。パワーポイントは，効果音や視覚効果次第で，ひとつの作品として色んな表現ができるので立派な成果物であると思います。今後もパワーポイントを使うことは賛成です。

⑥宮島を対象とした２回のフィールドワークで１回目と２回目との相違はありましたか？ ⇒ １回目は手探りのフィールドワークであったが，２回目は目的を持った内容の濃いものができた。

⑦全体としての感想は？ ⇒ 教科書や先生方の話を聞くだけでしか分からなかったことが，今回の実習を通して，「これを考えたら次に何をしなくてはいけない！ いや，でもこれはひょっとしたら住民の望むようなまちの在り方に反しているかもしれない！」といった“まちづくり”を考える基礎が漠然とではあるけど把握できたように思います。

⑧このような授業には，今後，どんな授業展開が期待されますか？ ⇒ フィールドワークの回数を増やすのは良いことだと思いますが，やりっぱなしにならない程度で，１回１回のフィールドワークのクオリテイーが高まっていく感じであったらなと思います。

【９】「計画実習Ⅱ」（２年次・後期・選択授業）での宮島におけるフィールドワーク型授業に関する授業評価（受講学生の評価回答率）

これについては，**資料３**に示す通りである。この資料から全体的にみると，「計画実習Ⅱ」における宮島におけるフィールドワーク型授業の授業評価は良好であったといえる。

資料３　宮島におけるフィールドワーク型授業の授業評価（「計画実習Ⅱ」での地域環境学科・２年生（現：３年次生）の回答率）

質問 ＼ 評価	①適切	②やや適切	③不適切	課題・改善案・ほかの意見
【質問Ⅰ】「計画実習Ⅱ」「まちづくり計画」「建築集合論」の3科目間の連携は？	50 %	50 %	0 %	各科目を比べ説明要す。全て必修科目であればより良い。
【質問Ⅱ】「計画実習Ⅱ」での事前の≪企画≫≪プレゼン≫の練習・訓練の、宮島に行く前の基礎トレーニング的な要素性？	50 %	50 %	0 %	授業中に調べる時間、発表に慣れること等が必要。これと課題との時間配分が大事。
【質問Ⅲ】「計画実習Ⅱ」の宮島でのフィールドワークに入る前の事前の確認事項・計画要素・チェックリスト的資料の内容は？	83 %	17 %	0 %	良い資料であった。しかし、更に色んな資料を見たかった。失敗事例もみたい。
【質問Ⅳ】「計画実習Ⅱ」の宮島でのフィールドワーク自体は？	83 %	17 %	0 %	時間を更にかけて欲しい。自分達個々で宮島に行き、補うことも可能な距離だ。
【質問Ⅴ】「計画実習Ⅱ」の宮島学習センターでのワークショップ自体は？	100%	0 %	0 %	ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞが必要。会場の暖房不足。
【質問Ⅵ】「計画実習Ⅱ」の宮島でのフィールドワークとワークショップの「繋がり」は？	50 %	50 %	0 %	繋がりがもっと分かり易いと良い。新たな発見や、宮島への愛着も湧こう。
【質問Ⅶ】その他：受講生が少なかったのが物足りない。宮島でワークショップや町おこしのイベントをしたりして、もっと宮島に貢献できたらと思います。				

５．まとめ

【１】FW＋WS 型授業の今後の展開

以上の結果，主に「計画実習Ⅱ」の成果を中心にみると，次のことが言えよう。

①FW ＋ WS 型授業では，与条件の設定項目と，その具体的内容・程度が，成果を規定し重要である。なお，FW ＋ WS の前の「企画・発表訓練」は有効である。

②FW ＋ WS 型授業と，少なくとも同開講期に開講され，内容が関連する「講義」「演習」「実習」等々の授業の内容面の調整が必要である。

③FW ＋ WS 型授業を複数回実施の結果，学生の変化として，発表内容・技術の向上があった。感覚的気付きから，発見・提案を意識するという変化であった。

④３年次後期の必修の講義科目で，講義科目に演習的な性格を与えるという試行は，程ほど，手応えが得られ，工夫次第で，今後展開可能と考えることができた。

⑤事前にキーワード・要件を示し，限られた時間でまちを歩くことを通して，「まちの現状を瞬時にみて，まちを認識・評価すると言うこと」は，地域・都市計画の分野では欠せない能力である。それを養う個人作業を，この度は実施したという感が強い。（今後は，共同作業での「FW」「提案作業」の展開も期待されよう。）

⑥教員と学生という閉鎖系ではなく，第三者（院生，地域住民，ほか）を絡めた開放系の教育は，授業を活性化させるものと言えよう。

⑦今後の課題としては，●個人作業と共同作業とを共に持つこと，その繰り返し，●発表技術・共同作業技術の向上のための専用のワークショップの開催，等々があるものと考えている。

【２】結果の公表

●日本工業教育協会：第 56 回年次大会（平成 20 年度）工学・工業教育研究講演会 講演（口頭発表） ⇒ 発表：平成 20 年８月２日，会場：神戸大学：森保・脇田にて発表済み。

●本報告内容の学科・ほかでの詳細報告を早期に実施した：

①地域環境学科において，報告会を実施した。

②その際，学内の関連学科教員に声を掛け，参加頂いた。

③結果の概要は，本学と学生交流の協定を結んでいる，広島修道大学・人間環境学部にも報告した。

④本報告書作成に関わり，多くの学生（特に，地域環境学科：現３年生）の協力を得た。彼らにも報告・対話し，新しい教育方法模索への参加意識の醸成･共有化を図った。

● NHK ラジオ：平成 20 年１月 23 日。朝７時前：当日の催し物案内で本授業内容が，紹介された。

● NHK テレビ：平成 20 年１月 23 日 18 ： 00 からのニュース，及び，同日 20 ： 45 からのローカルニュース（お好みワイド）にて，本授業内容が放映された。

●朝日新聞：平成 20 年２月１日朝刊にて，本授業風景が掲載された。

【3】注と謝辞：本報告は，2007年に開設した広島工業大学・教育研究プロジェクトセンター「学外地域フィールドワーク型実習教育開発センター」の2007年度の活動報告である。なお，当センターの研究代表者は森保，共同研究者は脇田氏，菊川氏，研究協力者は平川氏である。本報告をまとめるに当り，平成19年度の地域環境学科2年次・3年次，及び，環境デザイン学科4年次の学生諸君に，種々対応願った。ここに感謝する次第である。